

“NIDS NEWS”



防衛研究所企画室編集(03-3713-5912)

..... 2011年3月の主な出来事.....

〈 韓国国防大学校総長の来訪 〉



3月7日、韓国国防大学校総長林官彬(イム・ガンビン)陸軍中将が、任邦淳(イム・バンスン)陸軍大佐、李春柱(イ・チュンジュ)陸軍中佐の両教官とともに防研を訪れました。

所長表敬では韓国国防大学校と防衛研究所の今後のさらなる交流の深化をめぐって意見交換が行われました。

〈 日印防衛交流の開催 〉

日印防衛研究交流研究会が3月8日、9日の2日間にわたって行われました。日印防衛研究交流は、インド防衛研究所(Institute for Defence Studies and Analysis: IDSA)をカウンターパートとして、隔年で派遣と招へいを行っています。今回来訪したのは、ナ



レンドラ・S・シソーディア所長、アルビンド・グプタ上席研究員、ラジャラム・パンダ上席研究員、サラブジート・シン・パルマー研究員の4名です。

今回は「日印の防衛政策」、「興隆する中国 - アジアの安全保障への含意 -」、「日印2国間の安全保障

関係」のテーマで研究会を実施しました。研究会では対中国の関与とヘッジのバランス、地域アーキテクチャにおける米国の位置づけ、などに関して双方の認識の共通点と同時にアプローチの相違点が浮かび上がりました。

研究会終了後、一行は海上自衛隊横須賀基地にて護衛艦を見学しました。

〈 ラオス国防省対外関係局長の来訪 〉



3月3日、ラオス国防省対外関係局長シーパイ・ムアンドゥアン准将が、同局研究・計画課長パイワン・チャンタポムマ中佐ほか2名とともに防研を訪れました。一行は所長表敬の後、防研研究者と意見交換を行いました。シーパイ局長はこのたび外

務省が実施する21世紀パートナーシッププログラムにより訪日し、アジア経済研究所など研究教育機関を訪問しました。

《 日口戦史研究交流 》



3月3日、ロシア国防省参謀本部大学戦史研究所上級研究員ビクトル・ガブリロフ元大佐とロシア科学アカデミー東洋学研究所エレーナ・カタソノワ教授を講師とする戦史研究会が開催されました。研究会は「再考：ノモンハン事件」をテーマ

とし、ガブリロフ大佐からは「ノモンハン紛争 - 「事件」だったか大いなる賭けだったか? - 」、カタソノワ博士からは「ノモンハン・ハルハ川紛争 - 討論に付されるべき諸問題 - 」と題して発表が行われ、両者の発表の後で質疑応答が実施されました。

研究会には、防衛大学校、各幹部学校、大学等部外の教育研究機関からの聴講者も多数参加し、活発な討議が行われました。

《 第58期一般課程 》

先月から引続き、第3学期として「科学技術と安全保障」、「社会の安全と危機管理」、「近代社会の軍事史」及び「日本の防衛」の各講座を開講するとともに12個セミナーを実施しました。また、今月から各政党の安全保障政策に関する講義や将来の安全保障・防衛政策の在り方を検討する事例研究も開始されました。

さらに、留学生の現地研修として広島、京都及び奈良の文化施設等を研修し、日本の歴史と文化に対する認識を深めさせることができました。

なお、11日の東日本大震災発生後も、一般課程については日程の一部を変更し研修を継続していますが、米国からの留学生ケンダル海兵隊中佐については、仙台駐屯地の日米共同調整所に派遣され、被災地のために昼夜を問わず調整や通訳等の業務を遂行しています。

・・・「史料紹介コーナー」・・・

平成 23 年度は、歴代陸海軍大臣の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

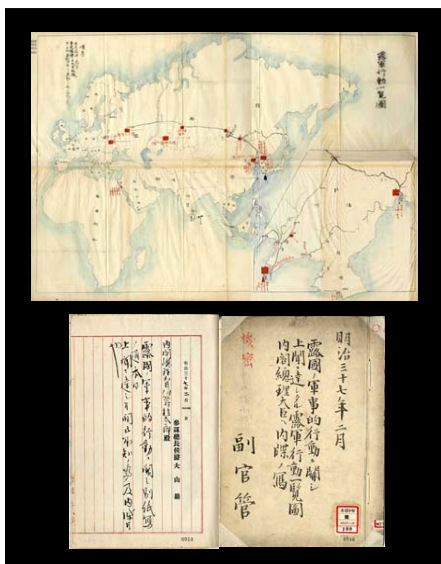
かつら たろう
《 桂 太郎 1847～1913年 》
- 軍制改革に貢献し、首相として日露戦争を戦った軍人政治家 -



軍事上百般之改良意見

(登録番号：陸軍省 - 日清戦役雑 - M28-15-123)

桂太郎大將はドイツ留学の後、明治 7 年 1 月、大尉として陸軍に奉職しました。その後、第 3 師団長として日清戦争に出征するとともに、台湾総督、陸軍大臣等を歴任しました。この史料は同大將(当時中将)が日清戦争から凱旋(明治 28 年 6 月)した後、参謀本部に提出した「軍事上百般之改良意見」です。本書には日清戦争における教訓から編制、武器、被服及び装具等について様々な改良意見が述べられています。特に戦闘に直接影響を及ぼす武器については、「鴨緑江ノ戦以来・・・射程ノ短キ為メ実ニ遺恨ヲ吞シ事其ノ幾回ナルヲ知ラス」と強い調子で「火砲威力(射程)ヲ増大セシムル事」を求めています。



露国ノ軍事的行動ニ関シ上聞ニ達シタル露軍行動一覽図

(登録番号：参謀本部 - 雑 - M37 - 10 - 188)

桂大將は陸軍大臣を務めた後、明治 34 年 6 月から伊藤博文の後を受けて内閣総理大臣に就任し日露戦争を戦いました。この史料は日露戦争が開始される直前の明治 37 年 2 月 1 日、参謀総長の大山巖大將がロシア軍の現状について明治天皇に伏奏した際、桂内閣総理大臣に内牒した「露軍行動一覽図」の写しです。同図には日本、ロシア両軍の行動が「赤色隊標ハ露軍」、「青色隊標ハ日本軍艦隊」、「矢ノ方向ハ運動中若シクハ運動ヲ欲スル方向」として詳細に記載されており、当時の日本軍の状況及び日本が開戦当初に掴んでいたロシア軍の状況を知る上で貴重な史料です。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。
 詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
 防衛研究所企画室
 専用線：8-67-6522、6588 外線：03-3713-5912
 FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp